

学年部会	放送番組を活用した、授業実践部会+α (アクティブ・ラーニング)
実践内容	タブレット PC と放送番組を組み合わせたアクティブ・ラーニング
教科・単元名	3年 社会 「買い物を見直そう」

1. 実践活動のねらい

3年生の子供たちは、初めて学習する社会科に大きな期待をもっており、学習活動に意欲的に参加することができる。本校のカリキュラムでは子供の意欲を一層引き出すために、地域の特性を生かして、町探検を行ったり、商店街でお店屋さん体験を行ったりと、体験的な活動を充実させている。そのため、社会科を好きになったり、地域をはじめ、社会的な事象に興味をもち、より学びが深まったりすることが期待できる。しかし、子供の中には活動そのものに気を取られ、何を学ぶのかが理解できていない子もいる。本実践では、放送番組とタブレット PC を活用し、お店の工夫について友だちと情報をやり取りしながら調べ、地域のスーパーマーケットの見学をする際の質問を考える活動をした。アクティブ・ラーニングの視点として、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの三つの柱を立て、どの子も課題が明確になることで、主体的に活動する姿を目指した。

2. 実践の内容・経過

普段おうちの人とは、どのようなお店で買い物をしているのかという課題をもとに、子供たちは買い物調べをした。その結果から、最も利用されているお店が、スーパーマーケットであることがわかった。地域のスーパーマーケットが最も利用されているのには、どのような秘密が隠されているのかという新たな疑問が生まれた。秘密を探るために、グループごとに質問を考え、スーパーマーケットの人にインタビューすることにした。スーパーマーケットの人に適切な質問をするために、事前に一般的なスーパーマーケットの工夫を調べた。

■具体的な手立て

(1) 主体的な学びを実現するために

●買い物調べとグラフの掲示

本実践で最もねらいたかったのは、「なぜ、その活動をするのか」が、どの子にも明確にできることである。買い物調べを通して自分の家庭や友だちの家庭の買い物を比較し、大きなグラフにまとめていくことで、「スーパーマーケットが人気である」という実感を持たせた。また、みんなで作り上げたグラフを掲示することで、「なぜ、その活動をするのか」をいつも振り返ることができるようにした。



●放送番組の活用

本実践では、NHK for School の放送番組「コノマチ☆リサーチ」を活用した。「コノマチ☆リサーチ」は、社会の中で「衣・食・住」を支える仕組みや仕事に焦点を当て、そこで働く人々の工夫を調べていく番組である。普段なかなか目を向けることのない“まちのひみつ”に、子供たちが気づき、社会的なものの方・考え方を身に付けていくことをねらっている。普段通いなれたスーパーマーケットだが、子供たちが今まで気づかなかったさまざまな工夫に目を向けることができた。また、グループ活動ではタブレット PC を使い、動画クリップを活用した。なお、この番組は平成28年度時点では、まだパイロット版しか放送されておらず、「スーパーマーケットのひみつ」の回のみが視聴可能になっている。



(2) 対話的な学びを実現するために

●タブレット PC と課題学習

番組の視聴から、スーパーマーケットにはどのような秘密があるのかを話し合い、次のような課題を立てた。

- ・買い物をしやすくするひみつ
- ・たくさんの人に来てもらうひみつ
- ・いろいろな人を買ってもらうひみつ
- ・商品をたくさん買ってもらうひみつ

各グループの中で、誰がどの課題を調べるのかを分担する。その後、課題ごとに4人ひと組のグループに分かれる。同じ課題の友だち同士が集まり、グループで1台のタブレット PC を使い、動画クリップを視聴しながらスーパーマーケットの工夫を調べていく。同じ課題をもった友だち同士が集まるおかげで、一人では気づくことができなかった情報も共有しながら、調べ学習を進めることができた。

●課題ごとに調べたことを共有する

スーパーマーケットの工夫について調べてきたことを、グループの友だちと伝え合う。自分の課題を調べる使命感からか、どの子もしっかりとメモを取ることができていた。また、自分の調べなかった課題についても、どのような秘密があったのか、興味をもって耳を傾けることができた。



(3) 深い学びを実現するために

●インタビューに向けた質問づくり

集まった情報をもとに、スーパーマーケットへの質問を考えていく。調べたことから「これは、地域のスーパーマーケットではどうなっているのか」というような、疑問をもって質問を考えることができた。

●スーパーマーケットの学習を新聞にまとめる

インタビューでわかったことや、見学で気づいたことは、グループで一枚の新聞にまとめた。課題ごとに調べたことから疑問をもち、課題意識をもって質問をし、対話しながらまとめていくことで、学びの深まりをうながすことができた。

3. 考察・成果や課題

自分の家庭について調べ、友だちの家庭と比較し、グラフ化するという導入は、子供が課題をつかむのに有効だった。そこに、アクティブ・ラーニングを意識して、スーパーマーケットの見学の前に調べる活動を設定することで、より明確に課題意識をもって活動に取り組むことができた。また次のような質問を用意していた様子からは、学びの深まりが見られた。

(27年度の類似の質問) 商品は何種類ありますか。



(今年度の質問) 本当に一万種類の商品があるのですか。

(「たくさんの人に来てもらうひみつ」を調べた結果から)

なぜ駐車場ではなく、駐輪場を作ったのですか。

(「商品をたくさん買ってもらうひみつ」を調べた結果から)

なぜ店頭野菜ではなく焼き芋があるのですか。

今年度は社会科に限らず、さまざまな場面でアクティブ・ラーニングを意識した実践を行ってきた。放送番組を活用する機会も多かったが、それだけ有効なコンテンツが充実していた。授業後に、他の地域のお店に買い物に行った際に、今回の学習で知ったことと、そのお店の様子を比較し、商品の並べ方や表示などの工夫に気づき、話をしている子がいた。この学習をきっかけにして、自分の日常生活の中でも新たな発見ができることこそが主体的な学びである。さまざまな場面で、活動を振り返り、今後の活動につなげていくことが大切である。この実践をきっかけにして、教科・単元をまたがって子供が必然性や課題意識を持ち、主体的で深い学びをねらい続けられるような「授業デザイン」をすることの必要性を確認した。